

よくある質問(2022年度博士前期課程入試)

海外からの受験について

Q. 現在海外在住であり、コロナ禍の入国制限のため、対面の試験が受けられない場合はどうしたらよいですか？

A. 夏季入試に出願したものの、入国できないといった理由で受験できなかった場合、冬季入試を追試験として受験できます。この場合、再度の出願手続き（書類の提出、検定料の納付）をしていただく必要はありません。

なお、現在のところ（2021年7月1日時点）、募集要項に記載のとおり、試験会場は大阪大学を予定しておりますが、今後、変更する場合は、随時ホームページにその旨を掲載します。

Q. 「帰省先住所」には何を書けばよいですか？

A. 母国における住所（家族の住所など）を記入してください。

Q. 海外の自宅に受験票を郵送してもらえるか？

A. 海外の自宅宛に受験票の郵送を希望する場合は、角2型封筒(縦332mm×横240mm)、もしくはそれに近いサイズの封筒と、日本から宛先までのEMS料金(アジア=1,400円、オセアニア、北中米、中近東、南米、アフリカ=2,400円、ヨーロッパ=2,450円)分の日本郵便の切手、もしくは相当額の国際返信切手券を同封してください。

また、日本在住の知人を代理人として受験票を受け取っていただくことは可能です。

その場合は、封筒の宛名に代理人の住所氏名と、()書きであなたの氏名を明記しておいてください。

Q. 海外からの出願書類の送付はDHLを利用してよいですか？

A. はい。どのような手段での送付でも構いませんが、不着や遅延といったトラブルを避けるため、追跡確認ができる方法で送付してください（DHL、EMS、FedExは有効です）。

Q. 海外在住のため住民票の写しが提出できないがどうしたらよいですか？

A. 日本における住民登録をしていない場合は、パスポートの顔写真があるページのコピーを提出してください。

住民票について

Q. 市区町村窓口が開いている時間帯に取りに行くことができない。コンビニに設置されている端末機にて印刷したものは有効か？

A. 市区町村が発行する住民票であれば、コンビニ等に設置されている端末機（マルチコピー機）にて印刷したのも有効です。

願書の入力、印刷について

Q. 願書に文字入力をしたが、印刷できない。どうしたらよいか？

A. 文字入力したものを印刷できない場合は、手書きの書類を提出してください。

証明書について

Q. 中国の大学に入学後、ダブルディグリー（2+2）プログラム制度を利用し、日本の大学に3年次から在籍し、現在、卒業予定だが、提出する証明書は中国の大学と日本の大学の両方が必要か？また、この場合、日本語能力試験N1レベルの認定証の提出は必要か？

A. 日本の大学を卒業、または卒業見込みであれば、日本の大学の証明書を提出してください。なお、あなたが在籍していた日本の大学の課程について、主に用いられている言語が日本語の場合は、日本語能力試験N1レベルの認定証を提出する必要はありません。

TOEFL のスコア送付について

Q. 募集要項内記載の送付指定期間より早く送付依頼をしてしまった。この場合、再度手続きをする必要があるか？

A. 出願の期限までに ETS DATA Manager にてスコアが確認できれば出願を認めます。よって、再度手続きをする必要はありません。

Q. スコアを送付依頼したが、実際に届いたかどうか知りたい。

A. スコアの到着状況をお答えすることはできません。出願の期限までに到着しなかった場合は、出願が認められない旨を連絡します。

出願書類について

Q. 夏季入試を受験したが不合格だったので、冬季入試に出願したい。この場合、英語スコアは夏季入試に出願したものを流用できるか？

A. 夏季入試を受験のため提出した場合でも、冬季入試に出願する際は、他の出願書類同様、英語のスコアについても、募集要項に記載のとおり、あらためて提出していただく必要があります。なお、英語スコアの提出に際しては、冬季入試出願に係る所定の提出期限を遵守してください。詳しくは募集要項をご確認ください。